

中四国における田園回帰と新たな住まい方 ～持続可能な「つながり」のかたち

2019年11月12日

資料3

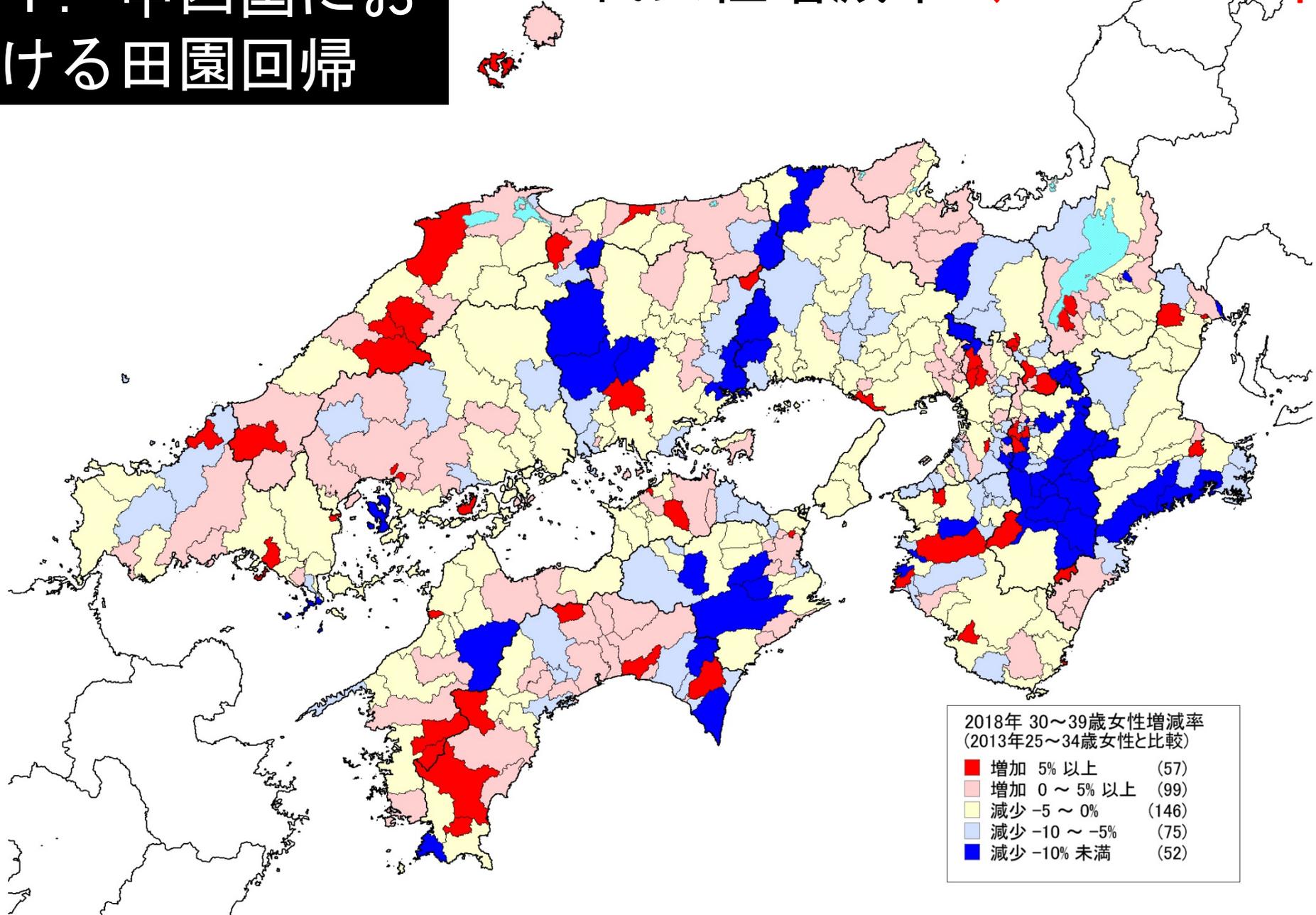
一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩

1. 中四国における田園回帰
2. 上島町の人口予測と安定化シナリオ
3. 地域人口と人間関係の「関係」
4. 人と人がつながる仕組み
5. 未来のつながりの形
～地元で共生圏をつくる

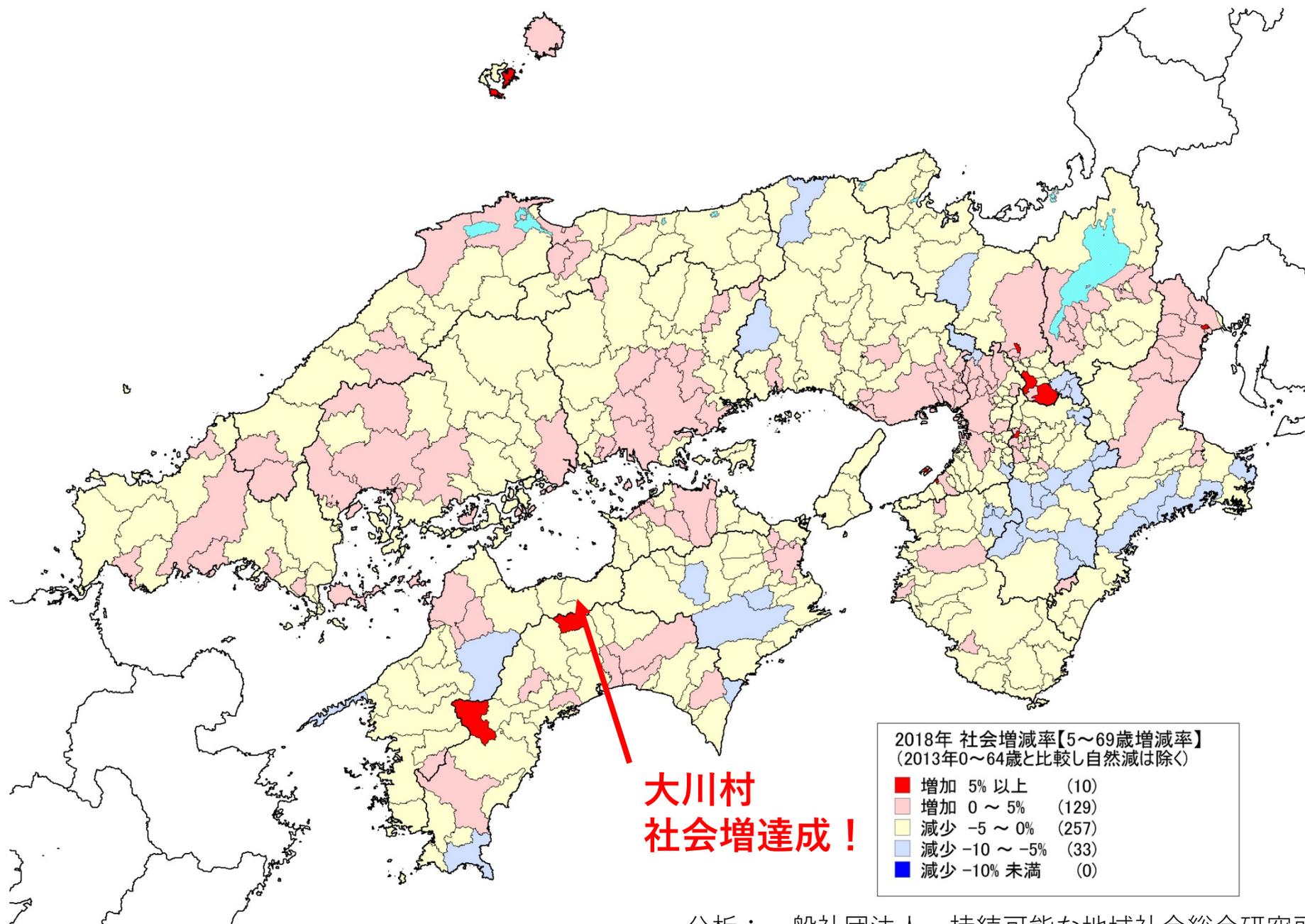


1. 中四国における田園回帰

30代女性増減率 (2013~2018年)



実質社会増減率 (2013~2018年)



分析：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

30代女性増減率TOP20

順位	都道府県	市町村名	増減率
1	島根県	知夫村	118.2%
2	和歌山県	北山村	55.6%
3	島根県	海士町	43.8%
4	三重県	朝日町	23.2%
5	高知県	大川村	23.1%
6	島根県	西ノ島町	21.2%
7	京都府	大山崎町	19.5%
8	京都府	向日市	19.4%
9	愛媛県	鬼北町	18.8%
10	高知県	三原村	18.6%
11	京都府	京田辺市	17.6%
12	高知県	禰原町	16.5%
13	京都府	木津川市	16.4%
14	島根県	川本町	15.5%
15	山口県	阿武町	15.2%
16	和歌山県	上富田町	13.8%
17	和歌山県	日高町	13.4%
18	奈良県	王寺町	13.2%
19	山口県	和木町	13.0%
20	大阪府	吹田市	11.5%
153	愛媛県	上島町	0.0%

社会増減率TOP20

順位	都道府県	市町村名	増減率
1	島根県	知夫村	25.6%
2	島根県	海士町	9.0%
3	高知県	大川村	7.6%
4	三重県	朝日町	6.9%
5	京都府	向日市	6.5%
6	京都府	京田辺市	6.2%
7	大阪府	田尻町	5.9%
8	高知県	禰原町	5.8%
9	京都府	木津川市	5.5%
10	奈良県	王寺町	5.0%
11	広島県	大崎上島町	5.0%
12	滋賀県	草津市	4.7%
13	京都府	大山崎町	4.6%
14	山口県	下松市	4.3%
15	和歌山県	日高町	4.3%
16	大阪府	吹田市	4.1%
17	大阪府	大阪市	4.1%
18	大阪府	箕面市	4.0%
19	和歌山県	上富田町	3.6%
20	愛媛県	上島町	3.6%

大川村

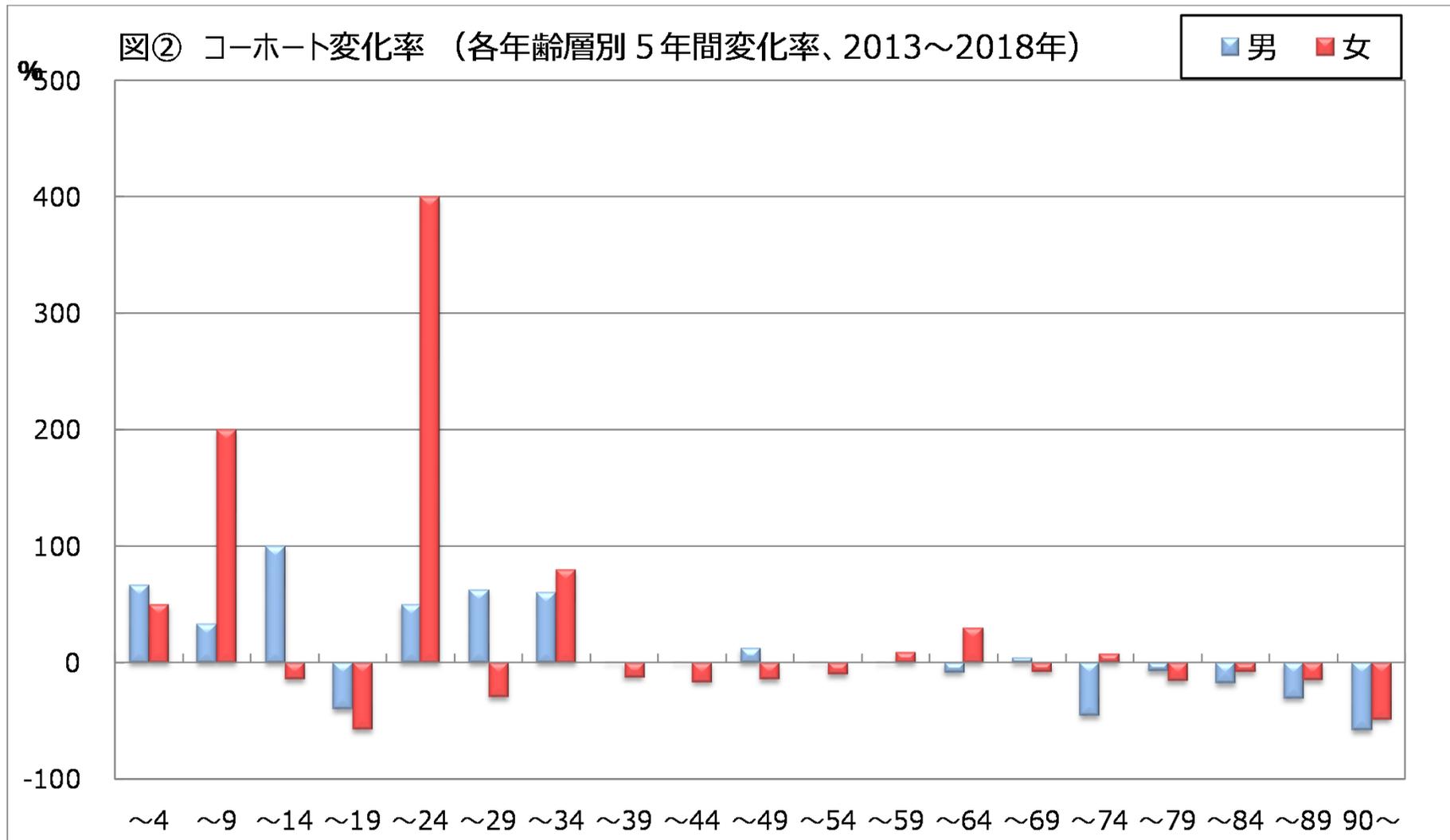
吉野川の早明浦ダムの上流にある
現在の産業振興は和牛と地鶏と花が軸

高知版「小さな拠点」=集落活動センター
では、学校給食+保育所+高齢者弁当
を「合わせ技」で実施

村の小&中学校では、山村留学を受入れ

若手農家ががんばる花卉栽培

大川村 2013年～2018年 男女・年代別人口の流出入率

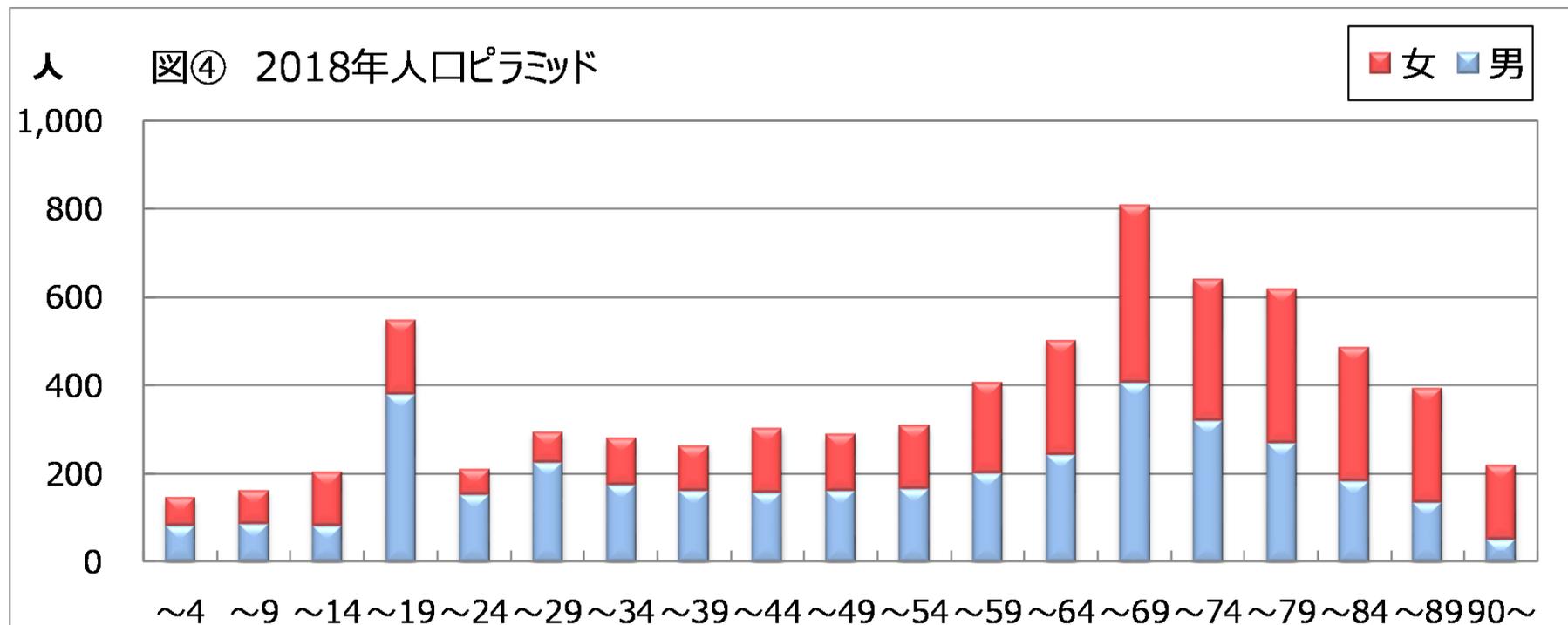


20代から子育て層まで、広範な流入超過に成功している

2. 上島町の人口分析および将来予測、安定化シナリオ

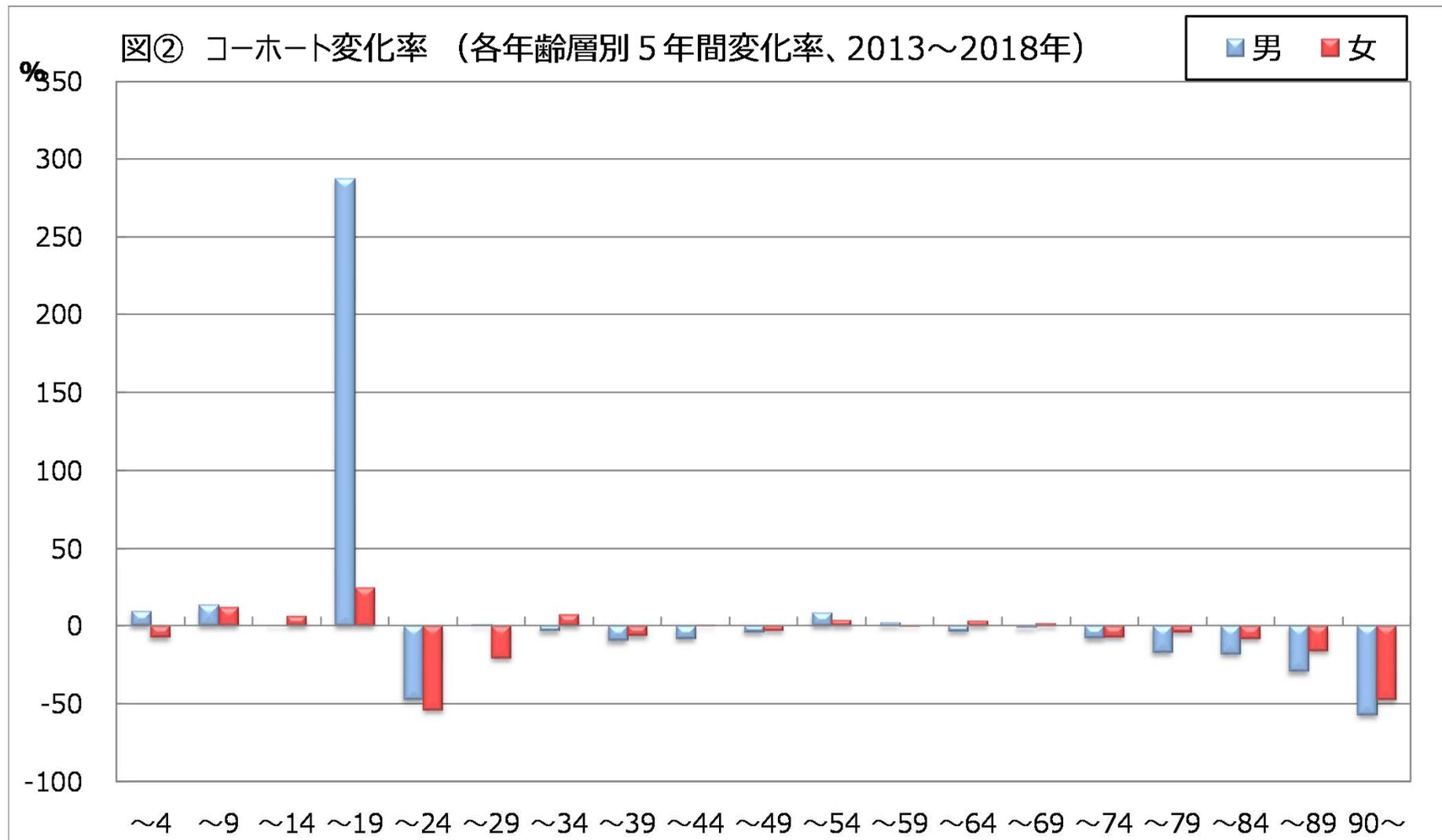
(1) 現状分析 2013年3月～2018年1月住民基本台帳

①現在の年齢構成



人口7,077人、高齢化率44.8% (75歳以上24.3%)
主力世代=60代後半

②年齢階層別の人口増減(流出入)率

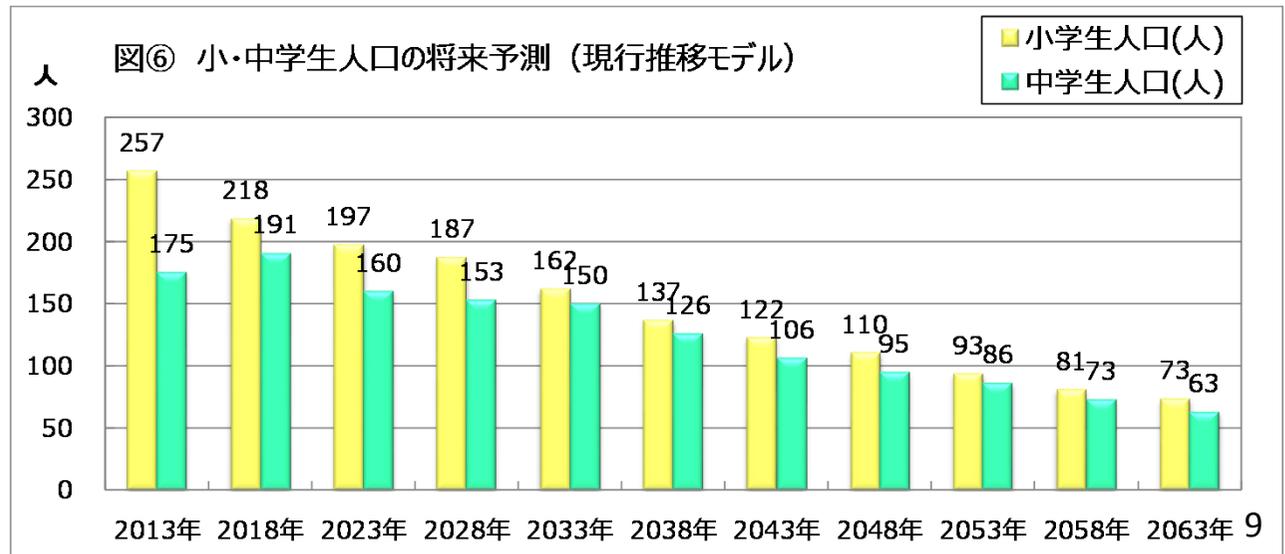
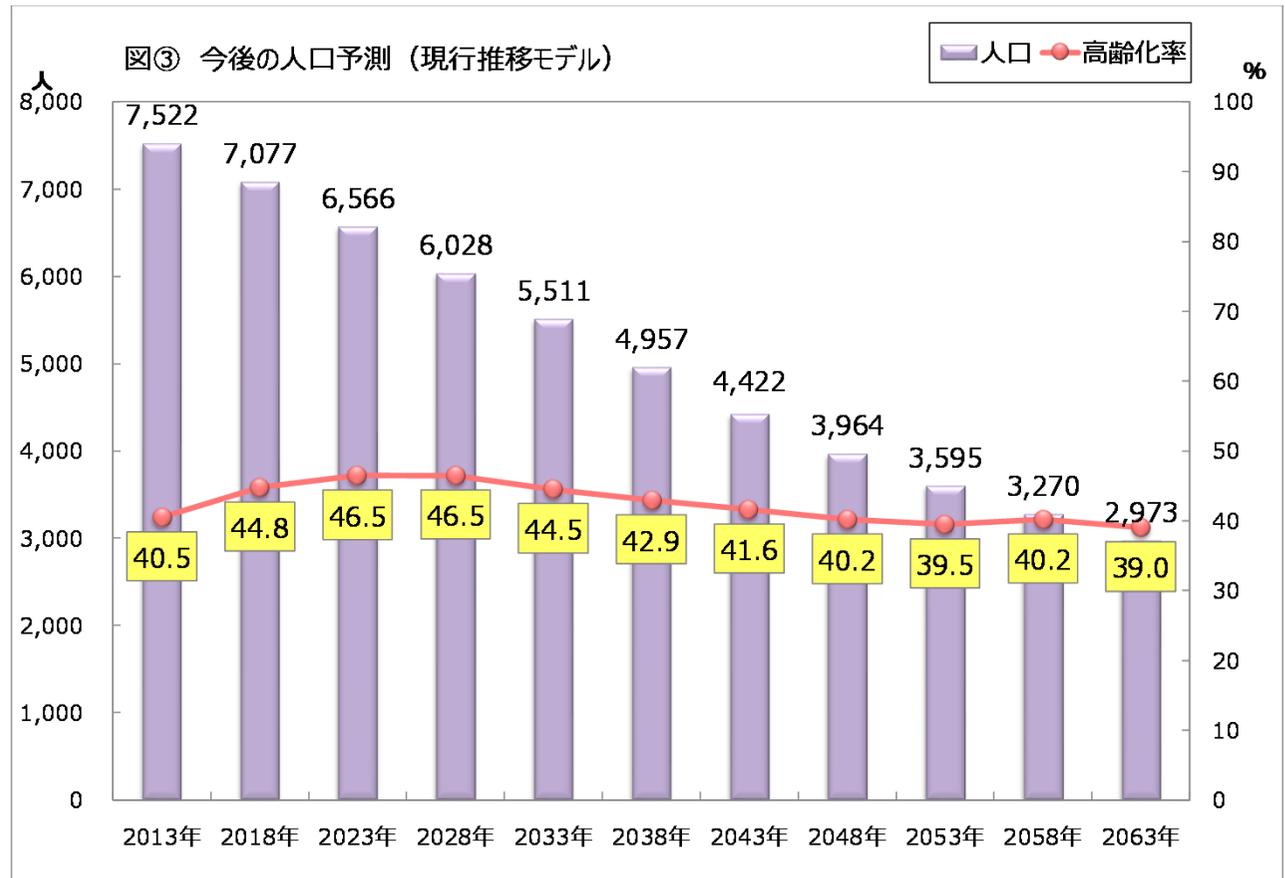


弓削商船高等専門学校等による10代後半の流入が目立つ。
子連れ世帯や50~60代の流入あり

(2) 将来予測 ＜現状推移 シナリオ＞

このままでは人口減少は続く。高齢化率はほぼ安定基調。

小中学生数の減少は、かなり緩やかになっている。ただし、長期的には下げ止まりは実現していない。



(3) 組み合わせ安定シナリオ(定住増加編)

【出生率・流出率・定住増加】の3つを組み合わせた最適シナリオが検討してみる。

●出生率: 現行の1.74を維持

●流出率: 10代後半～20代前半の流出率は
現行の男47%、女54%で設定

●定住増加組数:
毎年、人口の0.8%分(住民125人に1人)

20代前半男女1組(2名)



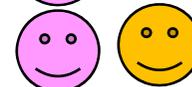
8組

30代子連れ夫婦1組(3名)



8組

60代定年帰郷夫婦1組(2名)



8組

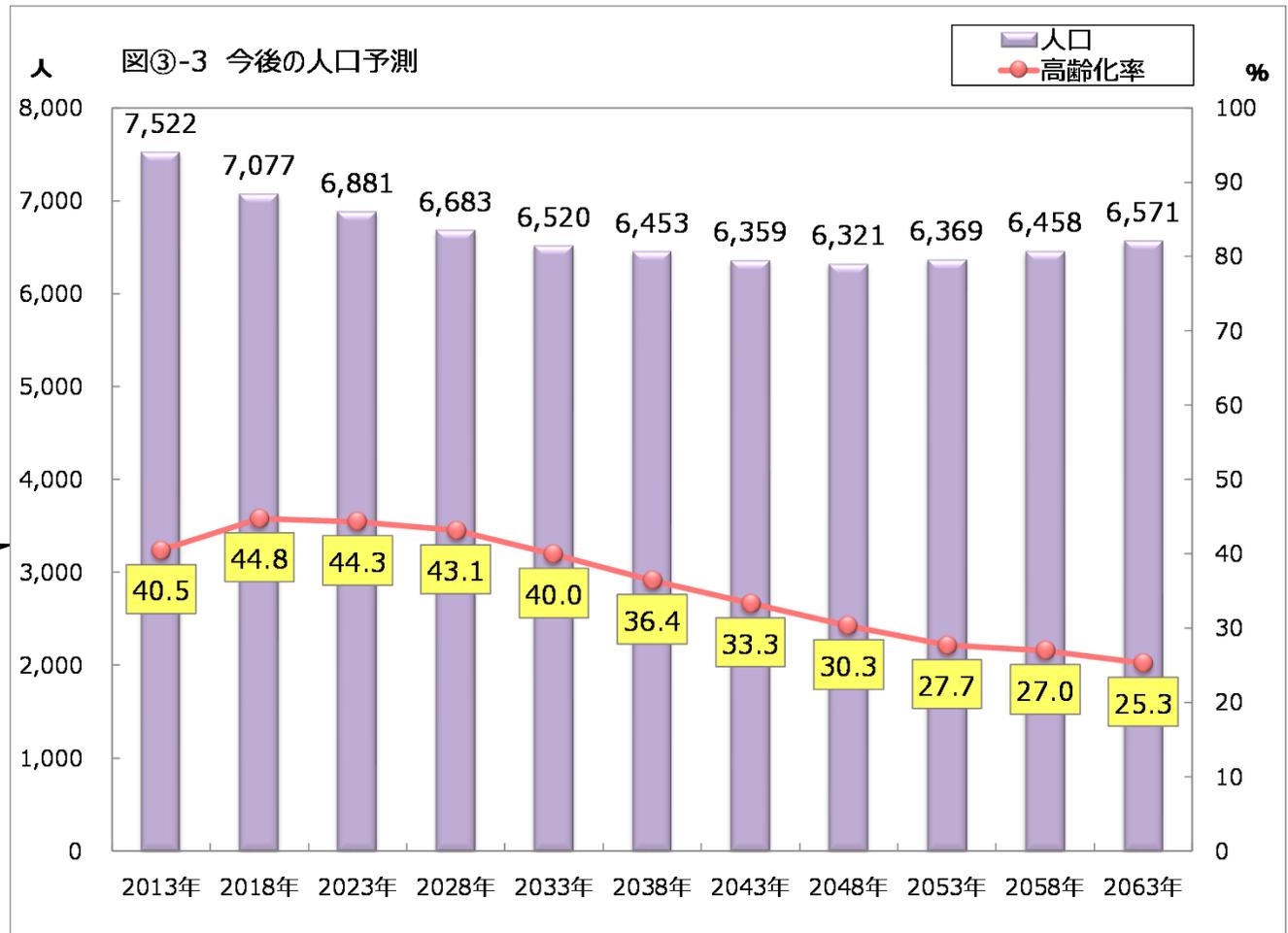
合計

24世帯

56人

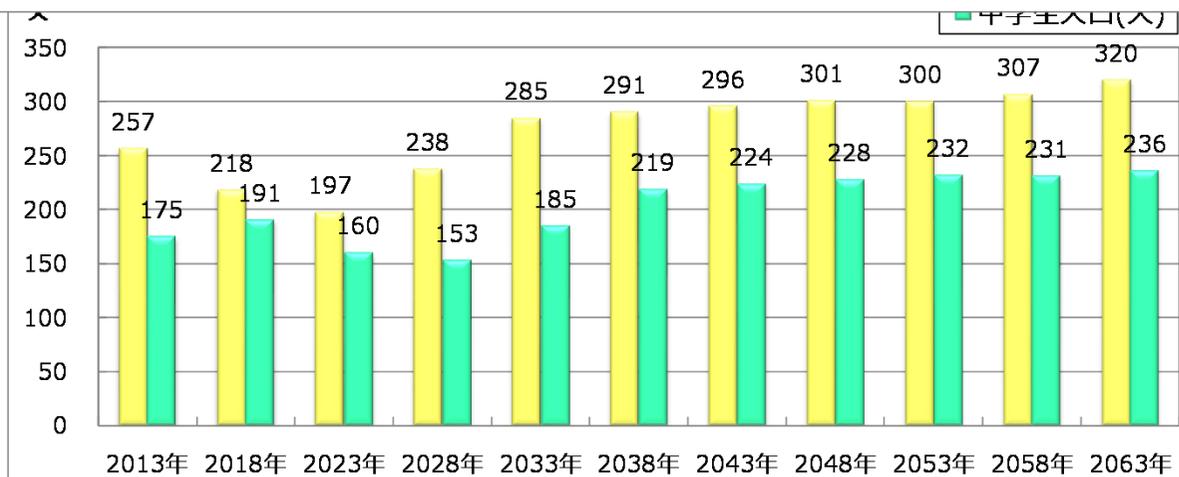
①今後の人口 ・高齢化率予測

**安定化
達成！**



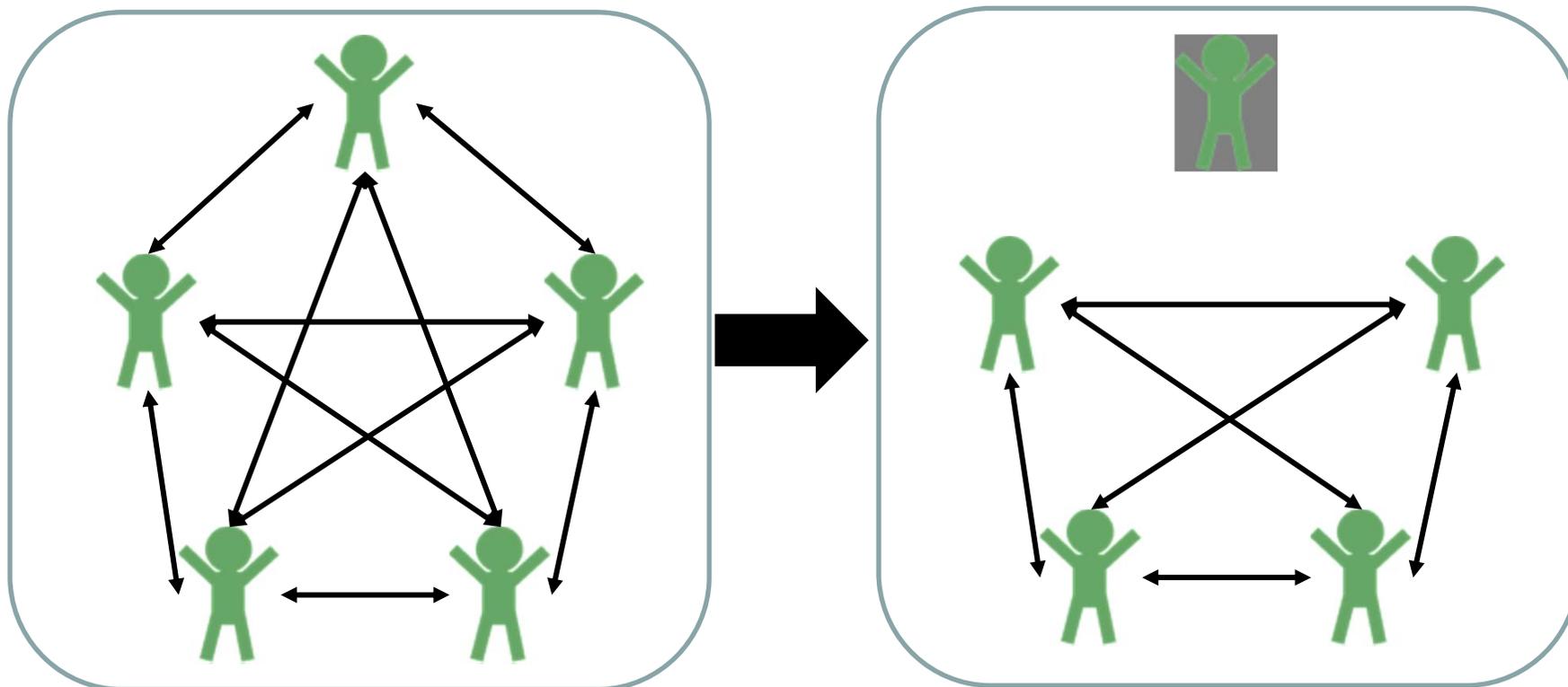
②小・中学生 の人口予測

小中学生数は、
長期的に回復、
増加へ。



3. 地域人口とネットワーク(人間関係)との関係

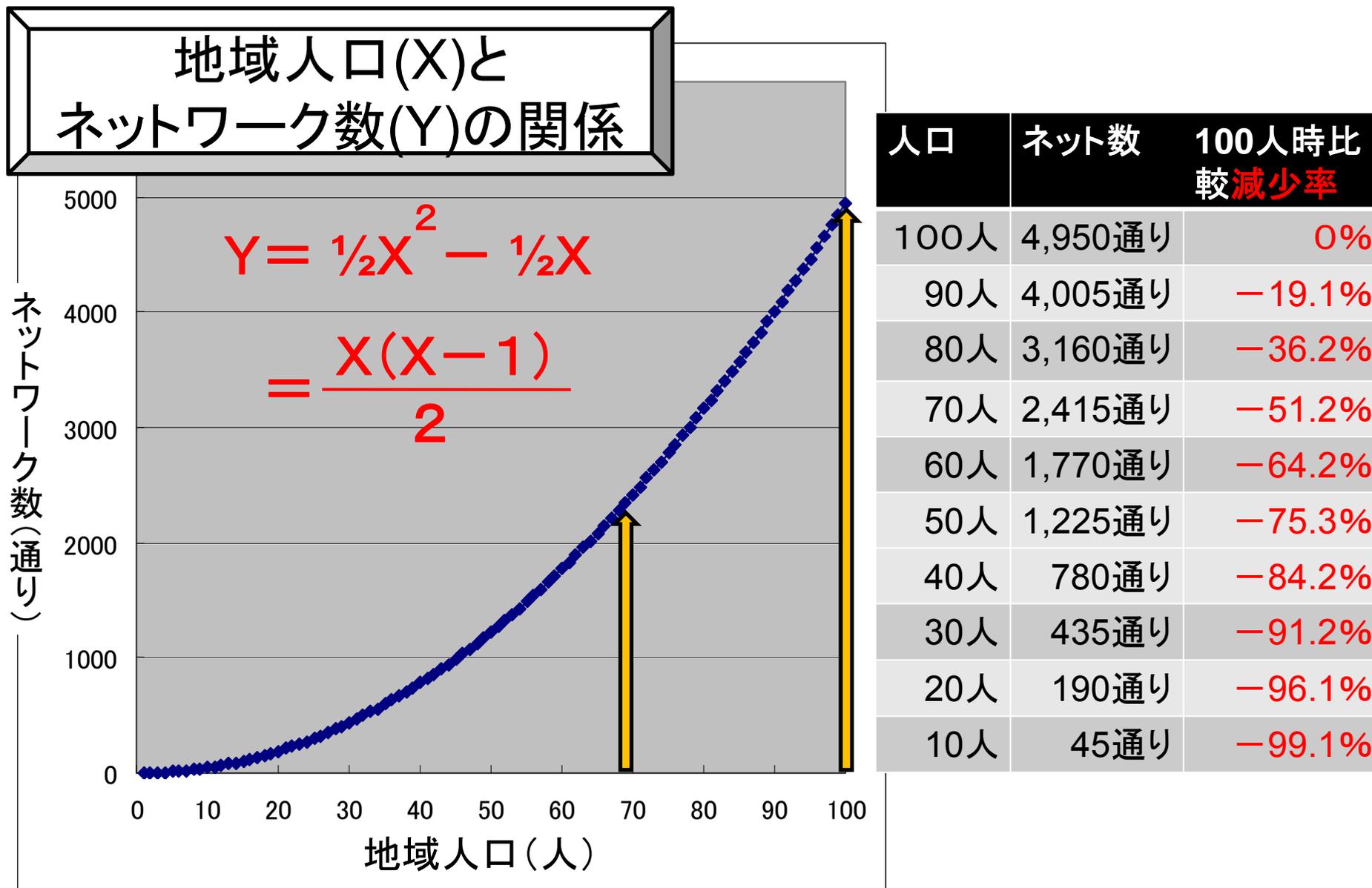
●人口が 5人 から 4人に減少すると、



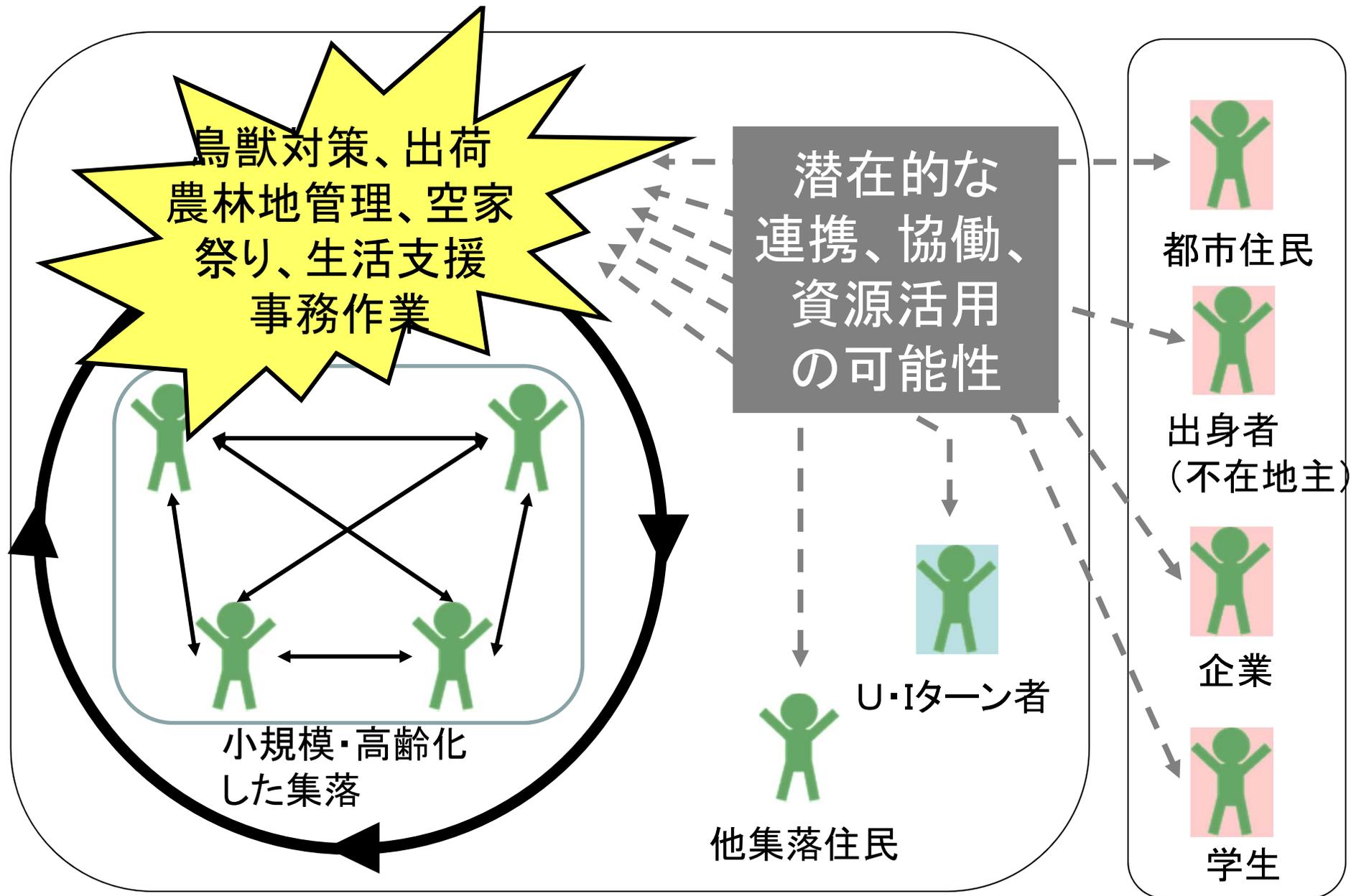
●ネット
ワークは、 10通り から 6通り と 4割減少

地域住民を取り巻くネットワークは、閉鎖的な地域単位では、
人口減少度以上に、急速に減少する！

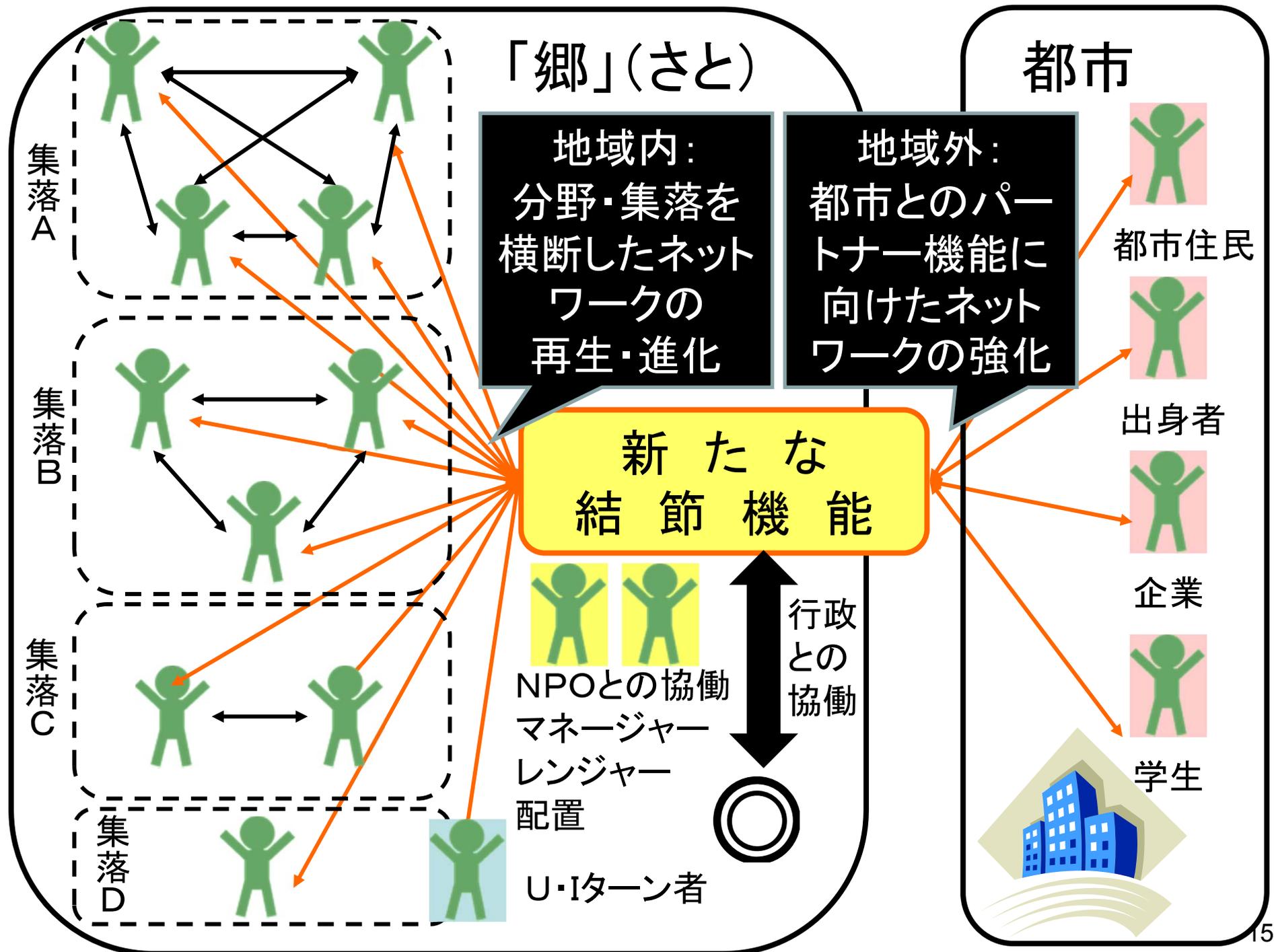
●地域内のネットワークの数は、人口の2次関数として変化



●人口が100人から70人に縮小するとネットワークは5割減¹³



小規模・高齢化した集落では、多くの人手や外部との連携が必要な場面・作業から、地域運営のサイクルが断絶しようとしています



2007年度「国土施策創発調査」
(国土交通省、邑南町、浜田市、島根県中山間地域研究センター)
新たな結節機能創出の社会実験

- ① 邑南町: NPOひろしまねを中心
地域支援・対外連携を多角的支援
高齢化した集落での鳥獣対策→
- ② 浜田市弥栄自治区: 現地居住
人材を配置、島根県立大学と連携

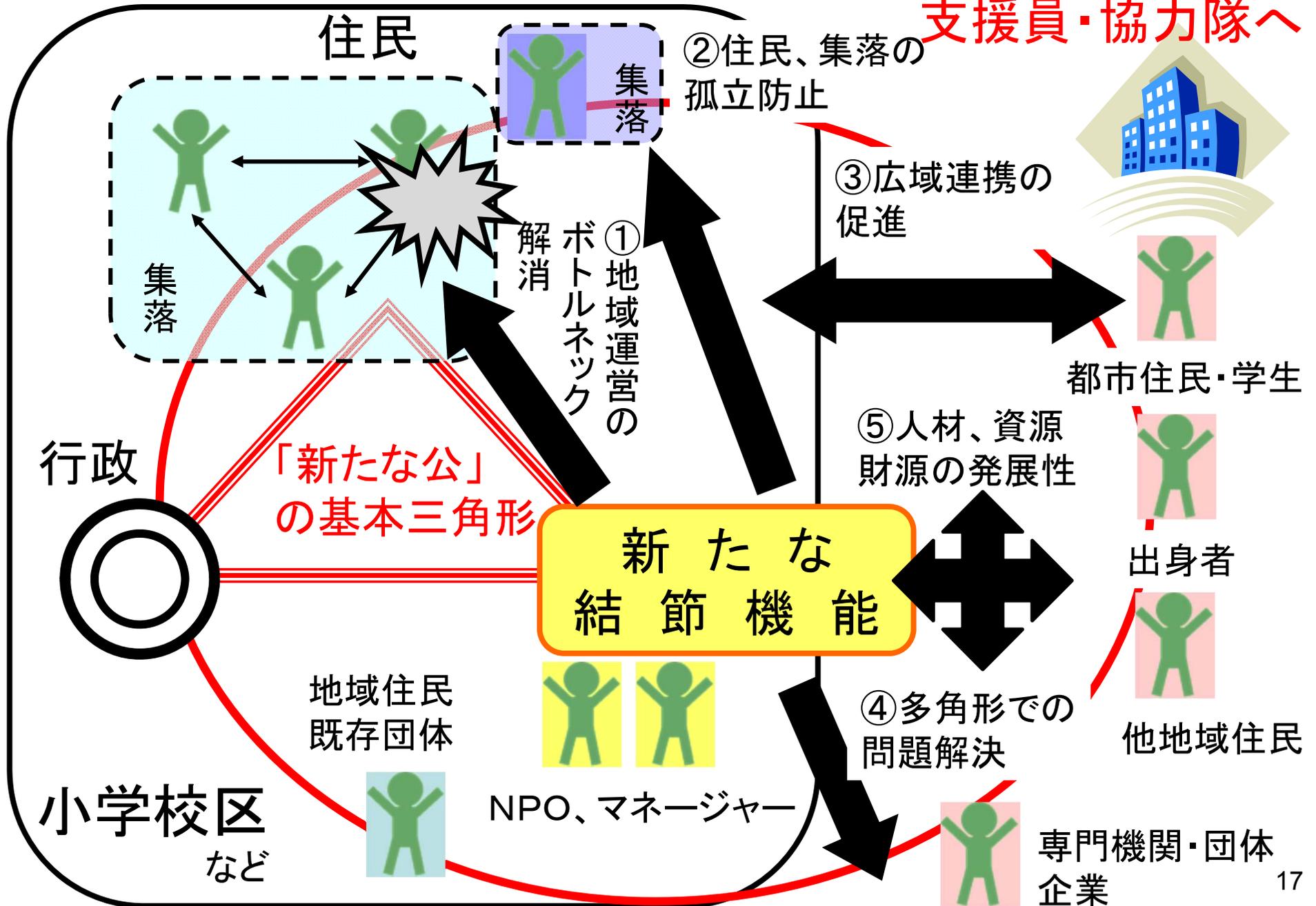


↓ 大学生で結成
里山レンジャーズ

大学でもアンテナショップ

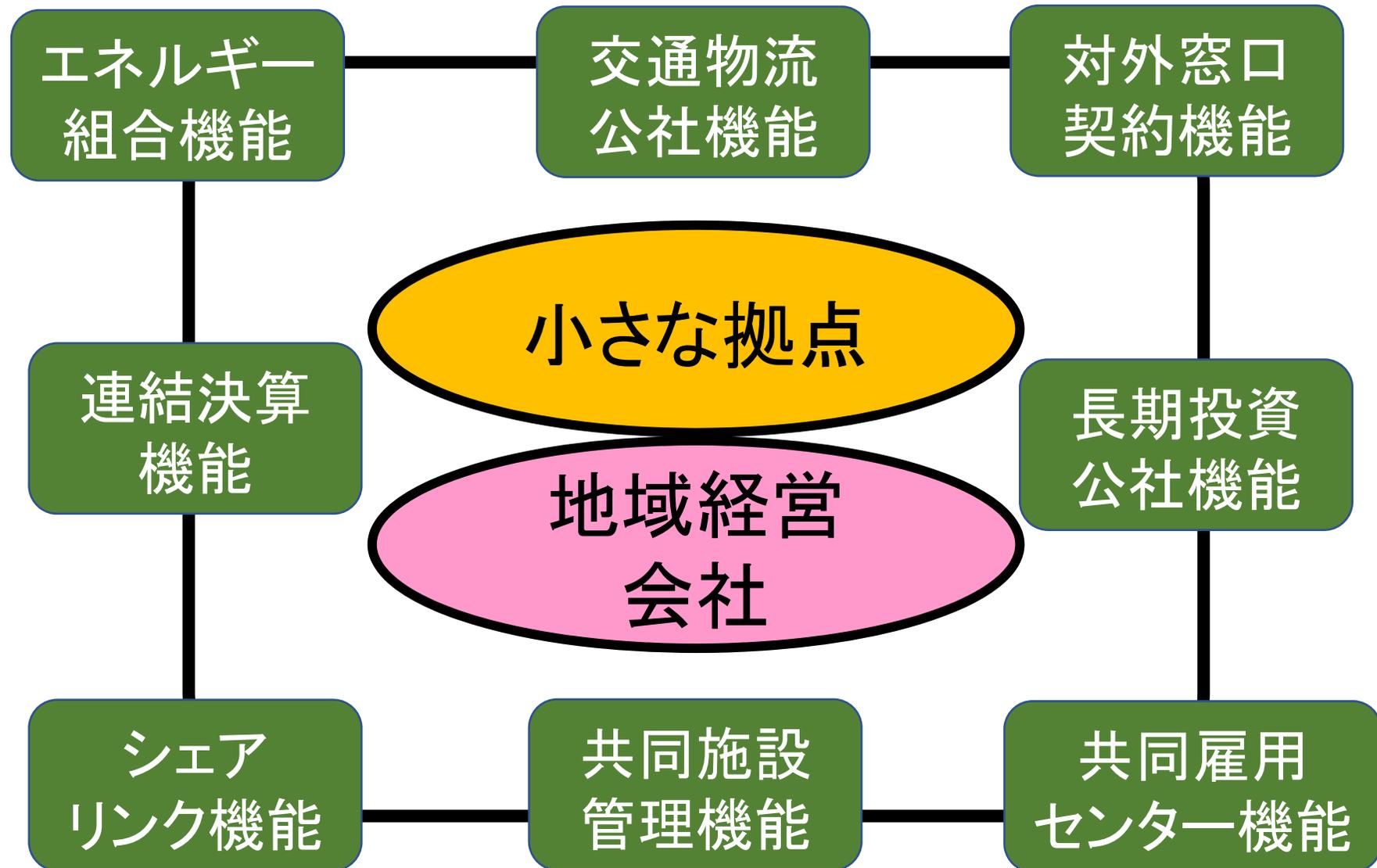


新たな結節機能によるネットワーク創生 → 社会実験を経て
支援員・協力隊へ



4. 地元の「結節機能」を担う

複合拠点・事業体＝ハブの重要性



国土のグランドデザインと総合戦略にも、集落地域を支える新たな複合機能拠点として「小さな拠点」構想が登場

地元で定住と循環の「砦」を創る



※実践編 「小さな拠点」づくりガイドブックより

梶原町では6地区すべてに「集落活動センター」(高知県版小さな拠点)が！自治組織(区)と事業組織(NPO、(株))が両輪で展開



四万川地区
住民出資でガソリンスタンド経営



松原地区
産直加工施設、パン屋さんも道向かいに



初瀬地区
韓国料理レストラン



4. 人と人がつながる仕組み～中四国の田舎にカフェ革命！

イタリアの街角のカフェ



人間には、居心地のよい「サードプレイス」が大切

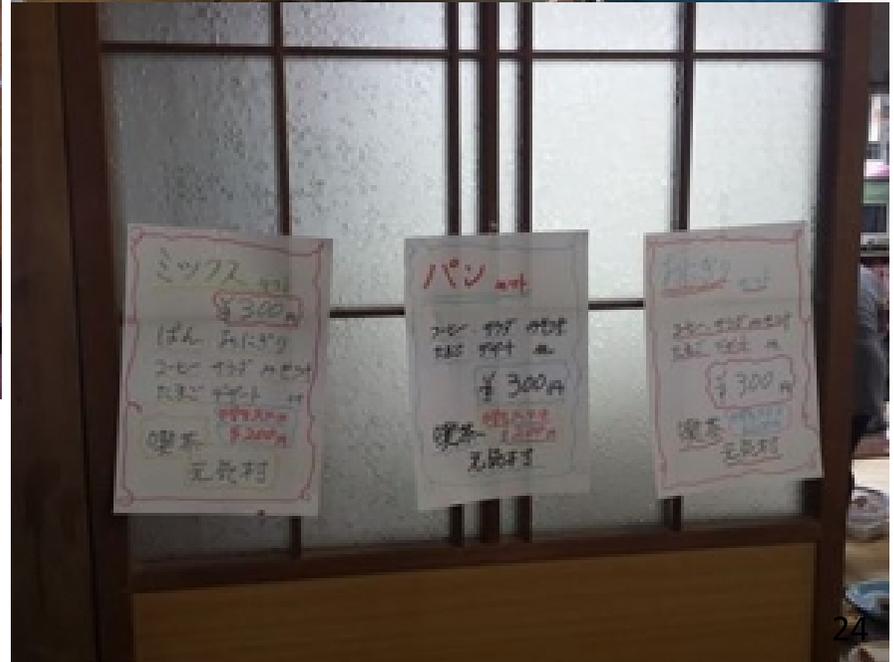


ヨーロッパの街には必ず広場がある～スイス・ブリード

無理をせずに「モーニングの日」から！



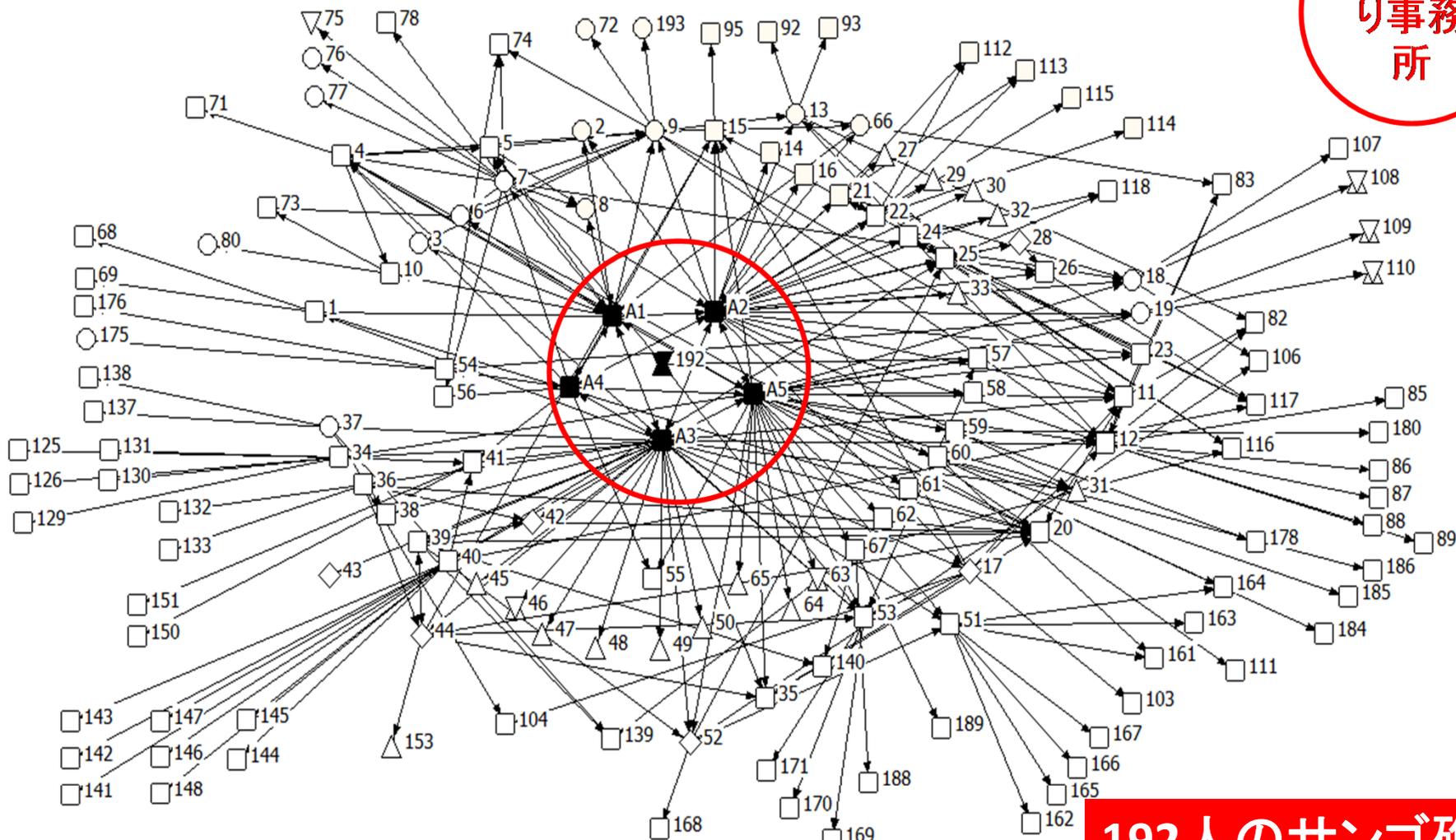
高知県土佐清水市
斧積地区(人口200人)



月1回「モーニングの日」
200人の集落に200人が集まる！

1,500人の村に5人が定住～4年間で人間関係はどう育つ

郷づくり事務所



192人のサンゴ礁
人的ネットワーク

弥栄住民 ... □ 弥栄U/ターン者 ... ○ 浜田市居住弥栄 ... ●
 弥栄外居住者 ... △ 組織・団体 ... ▨ 郷づくりスタッフ ... ■ 郷づくり事務所 ... ▩

5. 未来のつながりの形～重層的な循環圏を地元から

< 輸送モード >

< 検討課題群 >

三次循環圏
地方ブロック

ブロック拠点

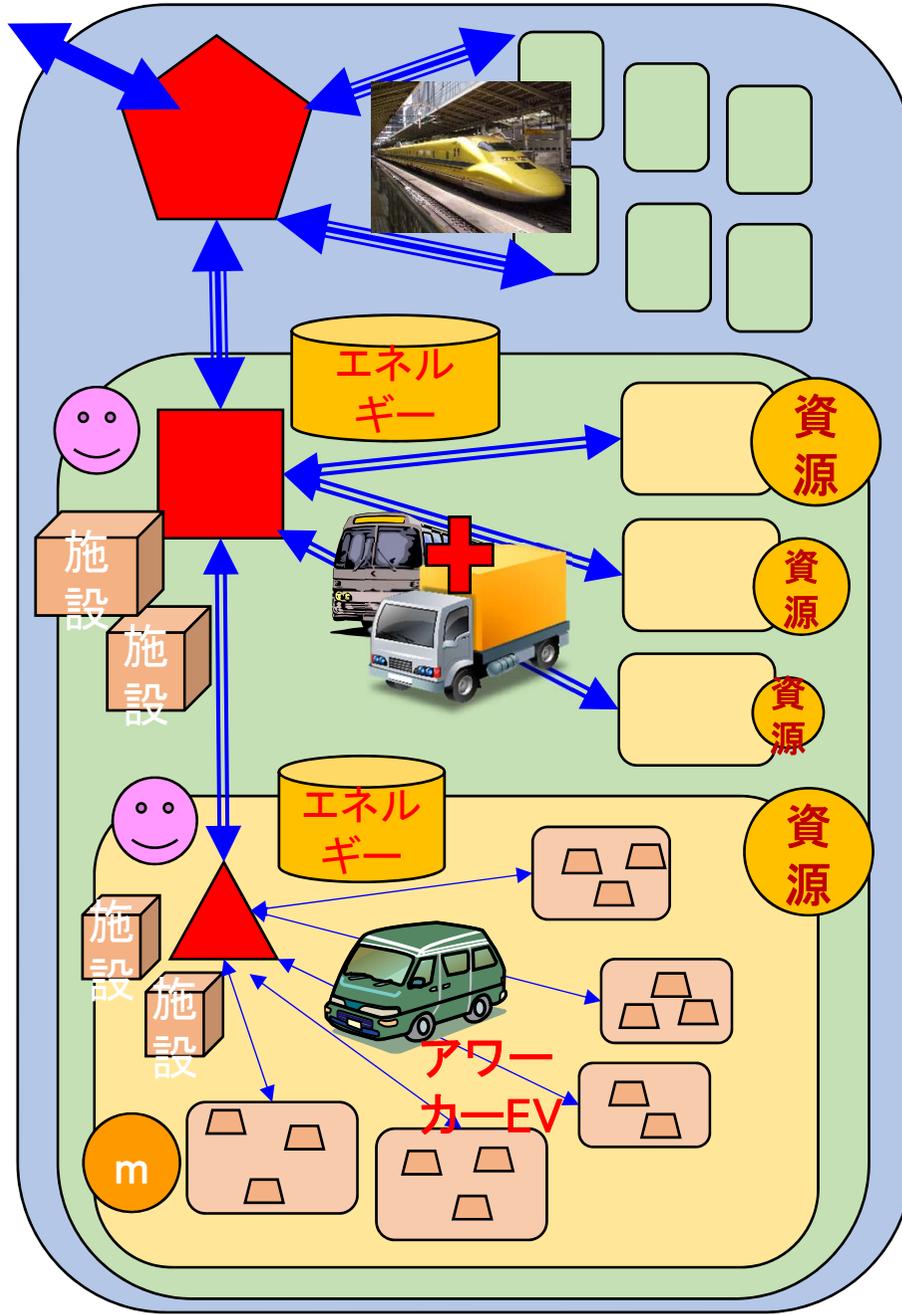
定住循環圏
地方都市圏

ハブ拠点

循環自治区
一次生活圏

小さな拠点

★地元は
not競争圏
yes共生圏



ブロック拠点

適正な配置と供給網

重層的な輸送・情報・決済のネットワーク設計

専門&高速輸送

高速道路&鉄道結合でスマートな新「軌道化」

ハブ拠点

専門大量輸送と複合少量輸送のスマートな結節機能

多分野複合輸送

情報ネットワーク

決済システム

施設の集約度(ワンストップ性)

小さな住民力結合

貨物輸送ベクトル(量・頻度・行先)

旅客輸送ベクトル(量・頻度・行先)

自動運転・新車両

エネルギー供給

小さな拠点

少量多品種複合輸送

集落世帯

分野横断マネジメント統合

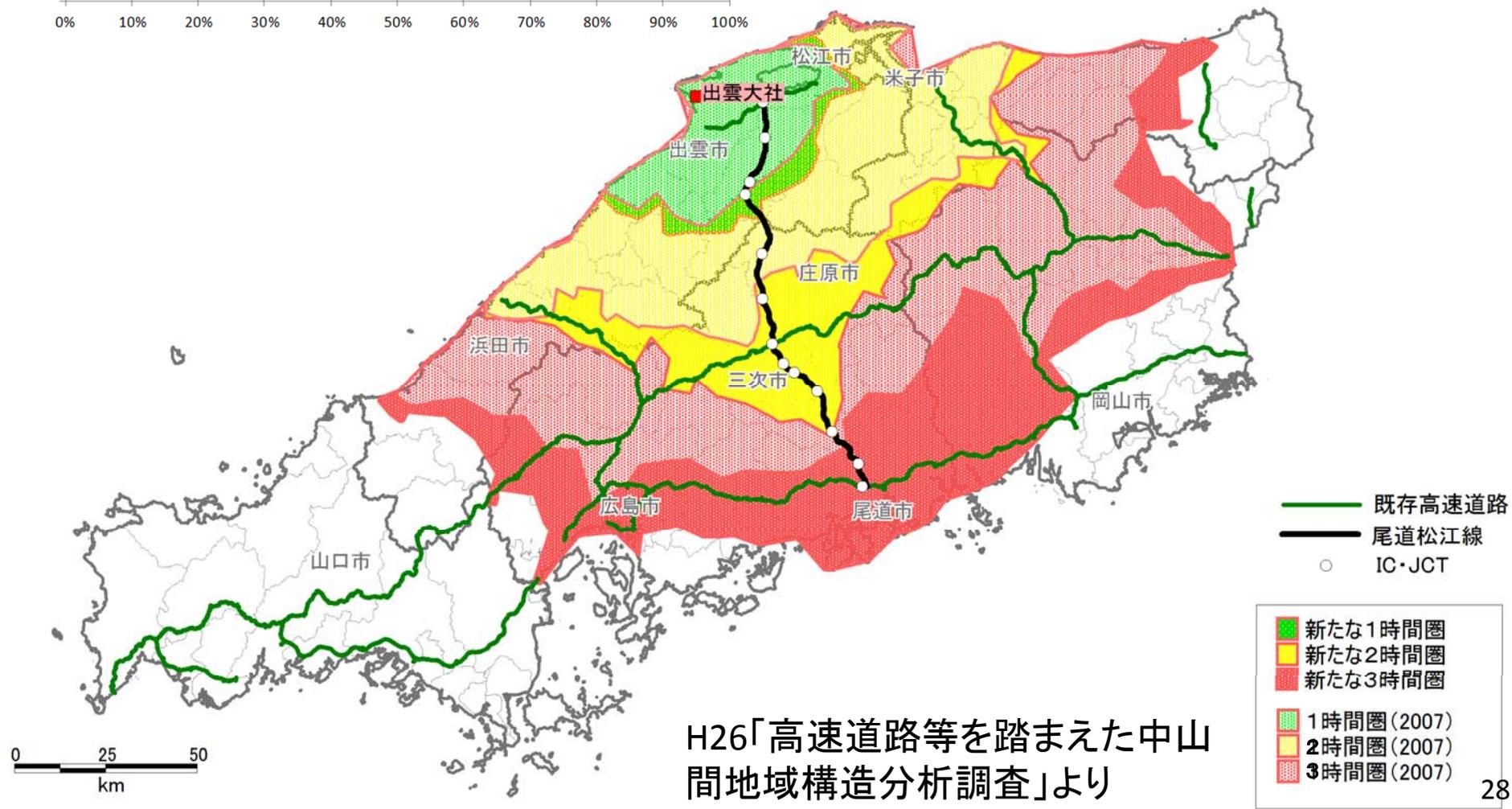
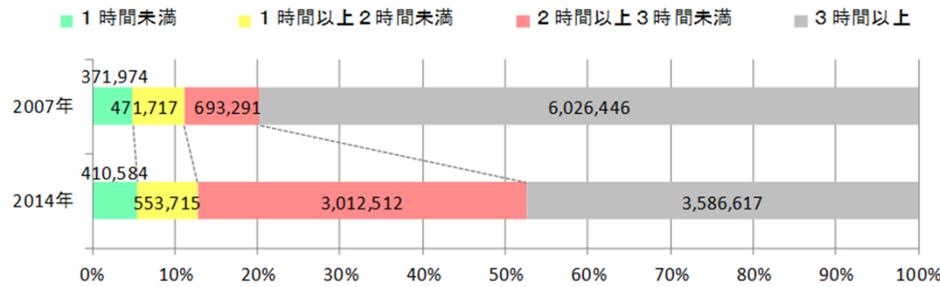
●拠点とネットワークの重層的連携と相乗進化～H20「広域ブロック自立施策等推進調査」～



●尾道・松江線の整備効果 ～出雲大社



**3時間未満合計は
244万人増加**



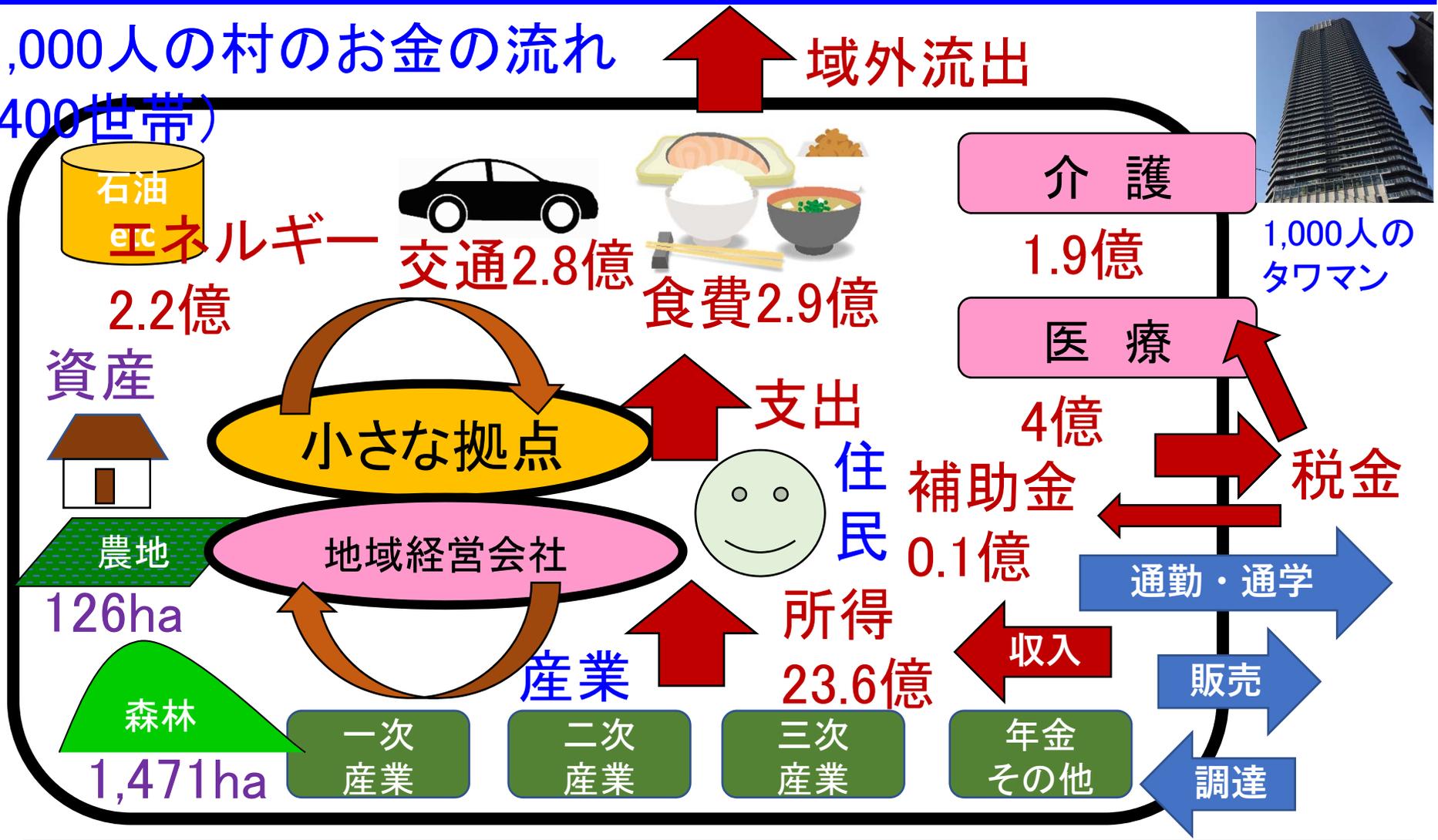
H26「高速道路等を踏まえた中山間地域構造分析調査」より



新しいつながりの形：改札を無くすとこんなにバスと列車が仲良くなれる～スイス・ブルグ駅

地元のお金と底力をつなぎ直す～1000人のタワマンより1000人の村！

1,000人の村のお金の流れ
(400世帯)



①所得: 島根県民平均所得: 236万円(2012年、「県民経済計算」島根県)、②補助金: 島根県A市における20地区への支払い額から、③食費: 2016年島根県邑南町瑞穂地区データより、④交通費: 島根県中山間地域世帯(年収400～500万円)平均値57,529円より、⑤エネルギー支払い額: 邑南町計算データより、⑥医療費: 2017年度国民健康保険データより、⑦介護費: 2018年度邑南町データより ⑧農地面積: 2010年度の全国中山間地域における1人当たり平均面積から算出、⑨ 森林面積: 2010年度の全国中山間地域における1人当たり平均面積から算出

未来につなぐ～長い目で域内循環への転換が確実に得策

＜地産地消で
所得増、交通は
共同化で削減＞

域内循環

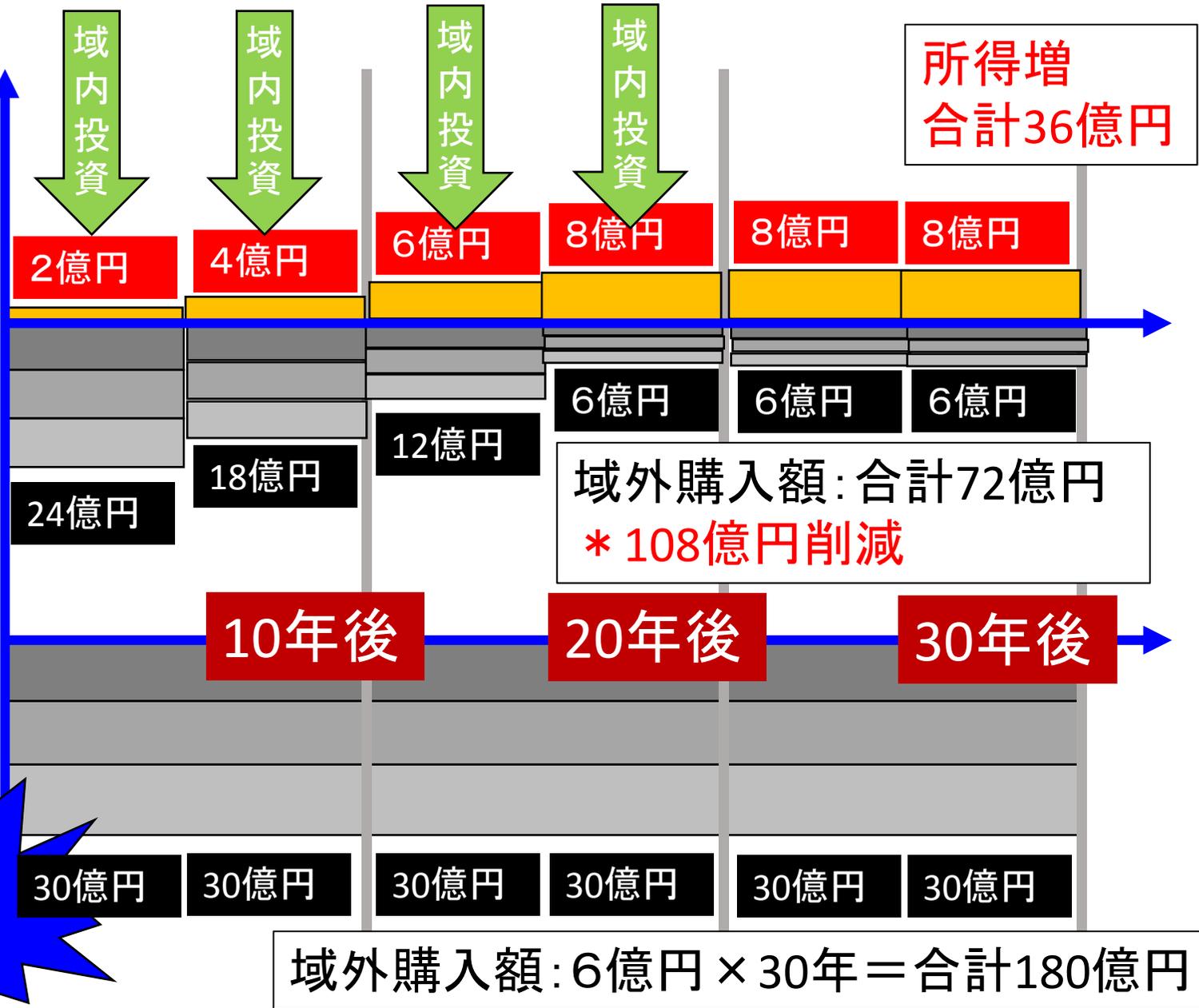
食料
エネルギー
食料
エネルギー
交通

＜流出部門＞

現状推移

食料
エネルギー
交通

なぜ
しない？



* 1,000人規模の地域を想定

山口県初 水田での ソーラーシェアリング

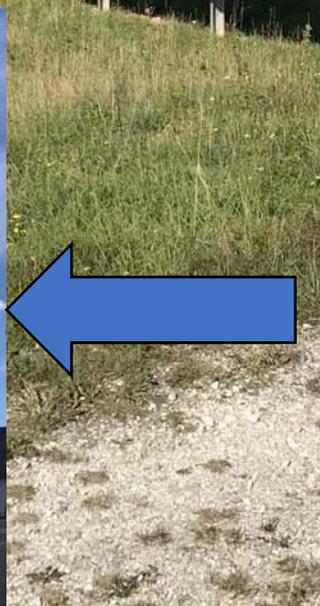
山口市阿東町 「阿東つばめ農園」 おひさま発電所



ドイツ・ラインフンスリュック郡では、137の村(総人口10万人)が共同し、木材とソーラーも含めて、ごみ処理会社を進化させ、エネルギー供給会社を設立。地域給湯・暖房にも乗り出す。



地域の学校やプールに熱供給も行う。



郡内各地から集められた林地残材をチップ化

オーストリア・チロル地方・ヴェルゲル(14,000人)では、「シュタットベルゲ(都市公社)」が上下水道・電気事業から進化し、**熱供給事業、交通(EVによるカーシェアリング)**にも乗り出す。



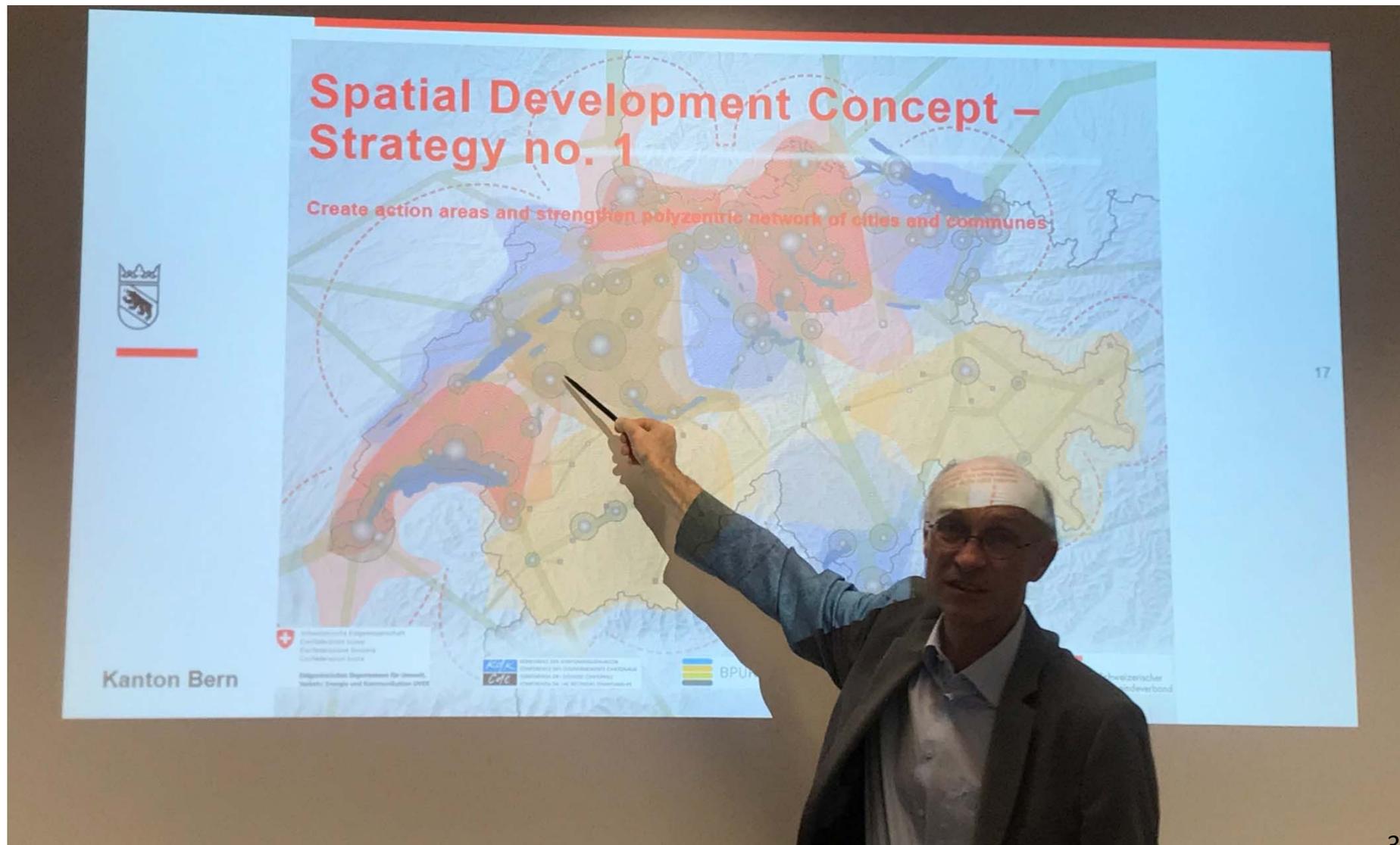
★ 地元の大手
酪製品会社
の廃熱利用

← 35%の事業所・世帯を熱パイプで供給



カーシェアリング
用のEV

スイス全体(800万人、4万km²)の空間戦略進化プラン例 ～大きな街も小さな街も重層的なネットワークの生態系の中 中で共生する～



世界は無数の地元で出来ている。何に「関係」し、何を遺していくのか？

「今だけ、金だけ、自分だけ」や「選択と集中」ではない。

地元で紡がれ、未来の世代を支え励ますものは、

「記憶と風景」。

